

「 傷害の防止 」

HIBIZAKI SURVIVAL PROJECT 命を救え！！一人命救助編—

～ 人命救助における応急手当に必要なこととは？ ～

本単元で育成する資質・能力

(教科) 知識を活用して多様な解決方法を考える力
 (学校) 表現力, コミュニケーション能力, 主体性

1 日 時 令和2年9月18日 13:00～13:50

2 学 年 第3学年1組 (女子18名 合計18名)

3 場 所 本館3F 3年1組教室

4 単元について

○ 単元観

本単元の応急手当の意義について学ぶ単元である。傷害が発生した際に、その場に居合わせた人が行う応急手当としては、傷害を受けた人の反応の確認等状況の把握と同時に、周囲への連絡、傷害の状態に応じた手当が基本であり、迅速かつ適切な手当は傷害の悪化を防止できることを理解できるようにする。その際、応急手当の方法として、止血や患部の保護や固定を取り上げ、理解できるようにする。

また、心肺停止に陥った人に遭遇したときの応急手当としてが、気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED（自動体外式除細動器）使用の心肺蘇生法を取り上げ、理解できるようにする。

その際、必要に応じて医師や医療機関などへの連絡を行うことについても触れるようにする。

○ 生徒観

本学級の生徒は、非常に活発に作業を行うことができる。体育分野の授業においては、互いにアドバイスをしながら、課題に取り組むことができる。保健分野の授業においても、自らの生活に結び付けて、課題意識を持って学習に取り組むことができる集団である。

緊急時の人命救助についてのアンケートを実施したところ、以下のような結果がわかった。AEDについて知っているかという問いに関しては全生徒が知っていると回答した。2年次の学びからAEDについては理解していると考えられる。

Q 部活動の試合や商業施設に行ったとき、AEDの場所を確認しますか？ 18人中

確認する (0人)	時々確認する (5人)	確認しない (13人)
-----------	-------------	-------------

次に、AEDの場所を確認するかという問いに対してはほとんどの生徒が確認しないと回答している。緊急時への備えという面においては意識が低いように感じられる。

Q 街中や通りすがりに人が倒れた場合、緊急時の対応に自信がありますか？ 18人中

ある (3人)	まあまあある (4人)	あまりない (6人)	ない (5人)
---------	-------------	------------	---------

また、緊急時の対応に関しては、半数以上の生徒が自信がないと回答している。緊急時の対応として不安な点は「すぐに動けるのか」や「パニックになるかもしれない」という回答もあった。

以上のことから、AEDなどの基礎的な知識はあるかもしれないが、いざという時にとっさに動けるのかが課題となっている。

○ 指導観

指導に当たっては、緊急時での対応を想定した学習になるようにする。本単元は2学年で学ぶ単元の発展的な内容である。AEDや心肺蘇生法について学んだ上で、緊急時の対応を組み立てていく。アンケートの結果からもわかるように、基礎的な知識はある程度あるが、いざというときに対応で

きるかが問題となってくる。今年度、総合的な学習の時間では、南海トラフ巨大地震に取り組んでいる。事前に学んだ知識をどのように活かすことができるのかが課題である。今回の学習は、既習事項を緊急時にどのように活用できるかが焦点となる。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本単元においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

資質・能力	知識・スキル			意欲・態度	
	授業の展開の場面で (ミニホワイトボード等を使用して)	表現力・コミュニケーション能力			主体性
レベル1		(話す speak) ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	(聞く) ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問することができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。
レベル2		(話す tell) ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	(聴く) ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて、内容を深めるために質問ができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル3		(話す talk) ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	(訊く) ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル4		自らが司会をして、少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。			

6 単元目標

- 傷害の防止について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組むことができる。(関心・意欲・態度)
- 傷害の防止について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動により、科学的に考え判断し、それらを表すことができる。【本時】 (思考・判断)
- 自然災害などによる傷害の発生要因やそれらによる傷害の防止、応急手当について、課題の解決に役立つ基礎知識的な事項及びそれらと生活の関わりを理解することができる。(知識・理解)

7 評価規準

健康・安全への関心・意欲態度	健康・安全への思考・判断	健康・安全への知識・理解
・ 傷害の防止について、課題の解決に向けての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	・ 傷害の防止について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見つけたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。	・ 応急手当について理解したことを言ったり、書き出したりしている。

8 指導計画（全2時間）

過程	次	学習内容 (時数)	観 点			評 価		
			関 意	思 判	知 理	評価基準	資質・能力 (評価方法)	
課題 の 設 定	情 報 収 集	1	(1時間) 2年次に実施	○		○	・ 傷害の防止について、課題の解決に向けての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 ・ 自然災害による傷害の防止について理解したことを言ったり、書き出したりしている。	【表現力・コミュニケーション能力】 (行動観察)
単元を貫く問い（探究課題の萌芽）								
人命救助における応急手当に必要なこととは？								
整 理 ・ 分 析	ま と め ・ 創 造 ・ 表 現	実 行 ・ 振 り 返 り	2	(1時間) 【本時】		○	・ 傷害の防止について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見つけたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。	【知識を活用して多様な解決方法を考える力】 (行動観察 振り返りシート)
単元を貫く問いの終結								
事前の知識（AEDの使い方・設置場所・心肺蘇生法の手順の把握） 一人でどうにかするのではなく、周囲に助けを求める力や協力する力								

9 本時の展開

(1) 本時の目標

- 傷病者の状態や発生場所に合わせて、安心安全な救助手順を考え、学習した内容から自らの行動を考えることができる。 (思考・判断)

(2) 本時の評価規準

- ・ 傷害の防止について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見つけたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。 (健康・安全への思考・判断)

(3) 準備物

ホワイトボードセット・モニター・iPad・資料・学習プリント

(4) 学習の流れ (2時間目/全2時間)

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて)	評価規準 [観点] ★資質・能力【評価方法】
1 人命救助について知る。[5分]		
導入の工夫 <p>・人命救助の動画を視聴する。</p>	◇緊急時における人命救助の場面の映像を見せる。	
2 本時の学習課題を設定する。[30秒]		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 学習課題 もし、皆さんの目の前で人が倒れたら・・・登下校中や部活動中に友達を救助しないとけない場面に出くわしたら、あなたはどのようにしますか? </div>		
3 本時のねらいを確認する。[30秒]		
単元を貫く問い <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ねらい 傷病者の状態や発生場所に合わせて、安心安全な救助手順を考えることができる。 </div>		
4 情報を整理・分析し、課題解決をする。[40分]		
グループの活用 <p>ステップ1 〈グループ学習〉 ・資料をもとに、救助の手順を考える。(15分) ①必要な役割 ②連絡機関 ③救助の手順 ④その他必要事項</p> <p>ステップ2 ・実演を交えて発表する。(5分)</p> <p>ステップ3 ・意見の交流を行い、質問や共通点を出し合う。(5分) ・発表後心肺蘇生法の手順について再度確認する。(2分)</p> <p>ステップ4 ・手順について再度考える。(8分)</p> <p>ステップ5 ・改良した点、こだわりをもった点について発表する。</p>	<p>◇グループ分けを行う。(5グループ) 想定される負傷者発生場所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 日比崎中学校 2 日比崎小学校 3 尾道駅付近 4 商店街 5 西公園 <p>◆資料を説明しながら、配慮する点について整理するよう声かけを行う。</p> <p>◇ポイントになるところに印を付ける。</p> <p>◇発表を聞きながらポイントに印をつける。</p> <p>◇実演を交えながら、心肺蘇生法の手順について確認する。</p>	<p>★知識を活かして多様な解決方法を考える力 [話し合い]</p> <p>傷害の防止について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見つけたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。[思・判] (ホワイトボード)</p>
<p>予測される生徒の考え</p> <p>A評価 周囲の人を巻き込んで救助の役割分担をする。 AEDの手配・心肺蘇生を行う人・周囲の安全を確保する人・救急車を呼ぶ人など、役割分担を行う。</p> <p>B評価 救助するために必要なことを書き出す。(役割分担などまで詳しくは書かれていない。)</p>		

思考の学び合い

改良した点がないグループは「ここは大切にしたい」「ここは重要だ」という点について発表する。(5分)		
5 学習のまとめをする。[2分] A		
・学習のまとめを行う。	◇生徒の発表から出た言葉を用いて、「応急手当」や「自分にできること」という視点からまとめを行う。	
7 本時を振り返り、これからの生活につなげる。[3分]		
・振り返りを書く。		
<p>生徒の振り返りの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の人命救助は一人ではできない。救助するためには、役割分担を行って、手順を明確にして行うことが重要であると分かった。もしもの時のために、普段から AED の場所を確認しておくなど、日頃からできることも行っていきたい。 		

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック (パフォーマンス評価)

尺度 (評点・レベル)	記述語
A (理想的)	緊急事態時における人命救助について必要なことが2つ以上書かれている。(AEDの手配・応援を呼ぶ・周囲の安全を確保するなど)
B (合格)	緊急事態時における人命救助について必要なことが書かれている。(AEDの手配・応援を呼ぶ・周囲の安全を確保するなど)
C (乗り越えさせたい実態)	感想

(5) 板書計画

HIBIZAKI SURVIVAL PROJECT 命を救え！！～人命救助編～

単元名 保健 傷害の防止

ねらい 傷病者の状態や発生場所に合わせて、安心安全な救助計画を考えることができる。

学習課題 もし、皆さんの目の前で人が倒れたら・・・登下校中や部活動中に友達を救助しないとけない場面に出くわしたら、あなたはどうしますか?

心肺蘇生の手順

生徒からでたキーワード

AED 助けを呼ぶ 119番

安全の確保 気道の確保 呼吸の確認